

2020年度を振り返って

今年度は、学校の一斉休校や4月の緊急事態宣言などコロナ禍の中でスタートしました。私たちの活動も、約数か月の間、教室の全面中止や専用教室（蒲田の初穂ビル）からの撤退、さらには非常勤スタッフの休業補償問題など活動と運営に大きな影響を受けました。

しかしながら、コロナ禍という困難な時期だからこそ、NPOとしての真価を発揮しなければならないという思い、さらには私たちが支援しているご家庭と子ども達は、より深刻な影響を受けている現状に鑑み、支援制度の紹介などの相談活動や（延べ約500世帯への）食材配布などの生活支援を取り組みました。さらには対面での教室が開催できない時期を利用して、オンラインでの学習支援の仕組みづくりを進め、5月には試験的な運用を開始することができました。その後6月から現在まで、委託事業の学習支援の場で、オンラインでの学習支援は引き続き継続しています。

またこうしたコロナ禍における子ども達とご家庭を支援を進めるため、また安定かつ自由裁量のある財源を築くために、本格的なファンドレイジングにも取り組みました。7月～11月までの約4か月間、マンスリーサポーター獲得プロジェクトを実施し、団体スタッフのみならず、大学生のインターンが中心的な活動を担いました。こうしたファンドレイジング活動を取り組む中、団体活動の社会的意義やイメージを気軽にかつ印象的にブランディングするための映像制作が必要と判断。NPO法人サービスブランドを通じて結成されたプロボノさんのチームによる映像制作プロジェクトを進めています。

そして、活動のクオリティーと拠点拡大を推進するため「拠点リーダー制度」の確立に向けて、教室ごとの現状把握とスタッフのヒアリング、そして拠点リーダーの役割を追加したボランティアマニュアル（学習サポーターマニュアル）をリニューアルしました。

地域とのつながりについては、大田区のNPO団体の多くが加盟している「おおたNPO活動交流会」においてあらたに「子ども部会」を立ち上げました。部会では、区内の子ども食堂、児童館運営団体、フリースクールなどの代表者と情報交換や連携を進め、区の職員を含めての会議、区議会議員との懇談会（大田区の子どもたちの学習会）を通じたイシューレイジングも進めました。

戦後最大の経済危機といわれる中、**支援者を増やして社会課題に挑戦する**というユースコミュニティーのミッションに回帰。地道に取り組んだ成果として多くの支援を得ること他できました。過去最大の助成金・補助金および寄付金や物品寄付、そしてボランティアの参加人数など多くの企業、団体、個人に支えていただきました。

1 今年度の具体的な取り組み

1) 市民活動（自主事業）：自由塾

- ◆大森教室（ヴェルデ）2020年6月から再開

- ◆蒲田教室（初穂マンション）→閉校

- ◆はすぬま教室（ふれあいはすぬま）2020年6月から開始

- ◆池上教室（テラッコ池上）2020年6月から開始

- ◆蒲田教室（MICSおおた）2020年6月から再開

- ◆仲池上教室（パルシステム東京）2020年6月から再開

◆糶谷教室（池上長寿園・特養ホーム糶谷⇒糶谷文化センター）不定期

- ・各教室については、それぞれが歩んできた伝統と目指す方向性を重視して開催しました。
- ・延べ97人の子ども達を支援しました。
- ・イベント関係は、例年に比べてごくささやかに実施しました。

2) 委託事業：大田区子どもの学習支援事業

生活困窮者自立支援法にもとづく子どもの学習支援に取り組みました。

就学援助・児童扶養手当・生活保護家庭の中学生3年生及び高校一年生、さらに高校中退者のための教室を区内公民館4か所8クラス《大森西（水・金）・蒲田（水・金・日）・仲池上（火・木）・糶谷（火・木）》を開催しました。

- ・中学生149名、高校生17名、高校中退者8名を支援しました。
- ・オンライン学習支援の導入、ソーシャルワーク（保護者の相談活動）を強化しました。
- ・イベント関係は、オンラインイベントを中心に、コンパクトに実施しました。
- ・アルバイト化していた学習サポーターの体制を改善するため、NPOの市民活動にもとづいた方針を浸透させ、有償ボランティアの意義、各種イベントへの無償ボランティア活動への参加勧奨、元アルバイトスタッフへの無償ボランティア協力の働きかけを積極的に行いました。その結果、オンライン学習支援等で大きな協力を得ることができました。

⇒この受託事業に対する大田区の評価について（動画参照）

3) 大田区子どもの長期休暇応援プロジェクト

昨年実施したような地域貢献活動（夏休みなどのイベント）は、すべて中止となりました。ただし独自に制作したオリジナル教材の配布や、物品寄付などのおすそ分けなどでプロジェクトに貢献しました。

4) 区内の子ども支援団体との連携

前記した「こども部会」をハブとして、社会福祉協議会や子ども食堂との連携（食材配布、子ども弁当のPR）を推進しました。

5) 賛助会員員制度

賛助会員（年会費3,000円）の会員数は39人でした。会員のメンバーは団体の有償スタッフがほとんどの割合を占めています。※認定NPOになるための条件として、最低100名の会員が必要になります。

6) ファンドレイジング

コロナウイルスの影響による臨時休校措置に伴い、「大田区の子どもの生活支援プロジェクト」のクラウドファンディングに取り組みました。また7月から約5か月間実施した「マンスリーサポーター獲得プロジェクト」11名の方からの協力がありました。こうした結果、団体の設立以来、最大の寄付総額998,351円をいただきました。

いただいた寄付は、生活困難を抱える元利用者への現金給付や食材等の配布、感染防止の亚克力板、そしてご家庭のオンライン環境を整備等の（行政からの委託費や助成金などでは支出できない）支出に活用しました。また団体内部のファンドレイズの知識を充実させるため日本ファンドレイジング協会主催の必修研修に7名が参加しました。

7) 支援者を集めるための広報活動（ネット媒体の広報）

引き続き支援者を集めるための広報分析と改善を進めました。今年度はいわゆる求人媒体の

利用は全面的に停止し、ボランティア募集の国内最大シェアを占めるようになったアクティボを活用しました。結果、約 300 名のボランティア希望者、約 50 名の有償ボランティア希望の大学生から応募がありました。寄付募集についても、手数料と掲載料を鑑み、上記のアクティボの寄付募集を活用しました。

8) その他の活動

- ・高校中退者支援のため八洲国際通信制高校と引き続き連携を進めました。
- ・自主事業のすべての教室においてブログを開設しました。

9) (寄贈) 関係

- ◆学習研究社（英和辞書、また学研の社員ボランティアさんから参考書）
- ◆エルモ（書画カメラ）
- ◆セカンドハーベストジャパン（お菓子・食材）
- ◆ニッセイ商事（文房具）
- ◆JR 東日本エレクトロニクス（Ipad20 台）
- ◆Z 会ソリューション（小学生向けワークブック）
- ◆日本コーバン（多機能マスク）
- ◆コーウェイ（空気清浄器）
- ◆だんだん子ども食堂（食材、小物アクセサリー）
- ◆地域からの教材の寄付
- ◆東京スター銀行（寄付金）
- ◆個人（大きい額の寄付金）千崎さん、永野さん、匿名の方（郵送）

助成関係

- ◆ベネッセ子ども基金
- ◆NTTドコモ
- ◆ゴールドマンサックス
- ◆大塚商会

2 スタッフの育成・交流について

コロナ禍のもと、全体的な学習会は実施できませんでした。しかしながら、塾講師検定を含めての実践研修や各教室ごとの定期ミーティング、さらにはボランティア有志による自発的な勉強会が行われました。

最後に

コロナ禍において、事業の継続性など様々な課題を抱えながらも、組織改革、運営体制の見直し、新たな資金調達の開始などに着手し、NPOの原点回帰を進めました。あらためて私たちの活動が、もはや地域に欠かすことのできないインフラとなっており、子ども達、保護者、地域、行政からますます期待されています。区内最大級のNPO団体として、そうした期待の声に一定程度応えることができたと思います。